

本論文は

世界経済評論 2020年9/10月号

(2020年9月発行)

掲載の記事です



世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料

1,320円×6冊=7,920円

6,600円

税込

17%

送料無料

OFF

富士山マガジンサービス限定特典

※通巻682号以降

定期購読
期間中

デジタル版バックナンバー読み放題!!



世界経済評論 定期購読



☎0120-223-223

[24時間・年中無休]

お支払い方法

Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

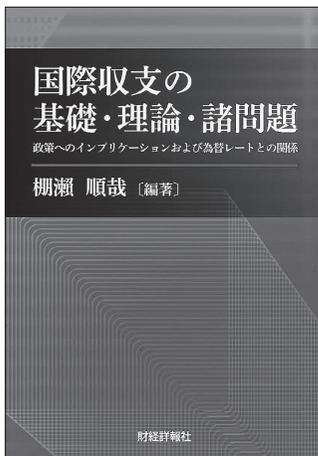
Fujisan.co.jp

雑誌のオンライン書店

国際収支の 基礎・理論・諸問題

：政策へのインプリケーションおよび為替レートとの関係

横浜商科大学教授 森佳子



〔編著者〕

棚瀬順哉（たなせ じゅんや）

財務省国際局資金管理専門官

〔発行〕財経詳報社，2019年12月

〔判型〕A5判，364ページ

〔定価〕本体2600円＋税

国際収支統計は、世界経済が置かれている状況や自国経済と世界経済との関係を位置づけ、理解する上で大変重要であるが、いかんせん統計の範囲が広範かつ内容が複雑であるうえ、独特の計上方法も手伝って、経済分析のプロにも敬遠されがちなデータである。本書はこうした国際収支の「暗く険しい山」の道先案内人として、人並み外れた知力と体力で荷物を担いで登山者をサポートしてくれる「シェルパ」の役割を果たすものだ。

本書は三部構成となっている。第Ⅰ部「国際

収支の基礎と理論」では、国際収支統計の見方と理論を説明するだけでなく、経常黒字のリサイクル論や非不胎化為替介入を巡る議論など、メディアでしばしば話題となるトピックについて詳説する。第Ⅱ部「グローバル・インバランス問題」では、国際収支面から新興国経済の実態を分析し、通貨危機に至る経路を解析し、経常収支の不均衡に起因する典型的なリスクは、大規模な経常赤字を抱える国の外貨調達能力に対する懸念が何らかの原因によって高まることにあると指摘する。第Ⅲ部「国際収支と為替レート：複雑性への対応」では、需給分析と理論の両面から為替レートについて考察する。円に関する分析では、需給に影響を及ぼしうる要因として、国際収支に起因するフローと投機的なフローに分け、さらに投機的なフローを短期と中長期のフローに分けてその影響力を解明する。短期のフローは、例えば日米インフレ格差などのファンダメンタルズと関係なく為替レートを決定しているようにみえるが、こうしたフローはほどなくして反対売買が入って市場への影響が中立化されるため、中長期的なトレンドにとってはノイズに過ぎないことを指摘する。こうした分析は著者がJPモルガン・チェース銀行で長年為替市場の調査に従事した経験に裏打ちされたものであり、説得力がある。

本書の先行研究として日本銀行国際収支統計研究会による『入門・国際収支—統計の見方・使い方と実践的活用法』（東洋経済新報社）があるが、同書の出版年は2000年であり、その後の20年間には世界経済を巡る数多くの事象が構造変化を遂げている。それにも関わらずこの分野の調査分析に空白が続いたのは、為替相場の決定要因として国際収支の位置づけが曖昧になったことや前述のように国際収支が攻略の難しい山であるためであろう。この誰がみても必要な分野でありながら、広範かつ複雑すぎて近寄りにくい国際収支に著者は再び光を当てることに成功し、今後の研究にも道を開いた点で本書は大変意義深い。（もり よしこ）